

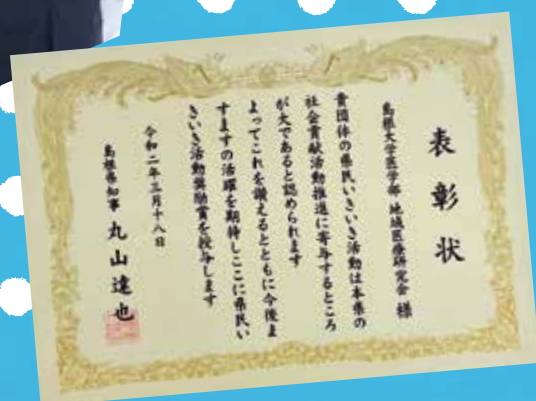
WE
LOVE

地域医療の橋わたし



CONTENTS

- 活動報告
- セミナー報告
リレートーク第32回
- 離島医療
隠岐広域連合立隠岐病院
院長 長谷川 明広 先生



令和元年度「島根県県民いきいき活動奨励賞」受賞 3月18日

島根大学医学部地域医療研究会(ちいけん)が令和2年3月18日、令和元年度「島根県県民いきいき活動奨励賞」を受賞した。

地域医療研究会は、毎年浜田市の弥栄診療所を中心として、弥栄地域の医療・健康特性を踏まえた研修会を企画して地域住民との交流や学会発表を行っている。

活動において評価された点は「専門知識・技能を活かして地域の健康課題に取り組んでいる点」「地域の課題解決

のための活動だけでなく、学生が中山間地において地域医療全体を視野に入れて活動する貴重な経験になっている点」である。

地域医療研究会の前身は農山村医療研究会で、今年は発足45年を記念してOB会・地域医療フォーラムの開催が予定されていたが、残念ながら新型コロナウイルス感染症の為に中止になった。しかし、この度の受賞や部誌を数十年ぶりに発行するなど、活動する仲間同士の繋がりと地域医療に対するマインドは先輩方から連綿と受け継がれていることがわかる。「ちいけん」をみまもる講座として、より一層のエールを送りたい。おめでとう!!

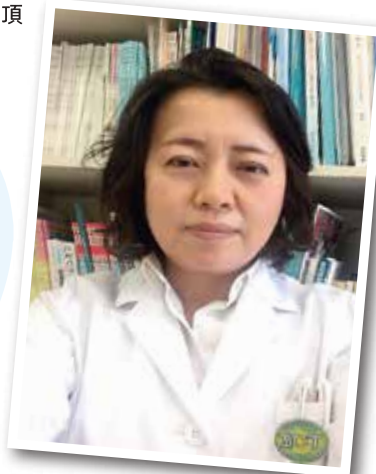


コロナウイルス共生時代に生きて

地域医療支援学講座 教授 佐野千晶

以前に微生物学研究をし、現在、島根大学医学部附属病院感染制御部副部長ICTリーダーを務めており、新型コロナウイルス感染症の病院対応に関わっています。

これ程、感染症によって、社会が変わってしまう現場に立ち会うこととなろうとは、夢にも思いませんでした。某TVで市民の皆様の疑問に答える機会を得ましたので、今回は、一部を紹介させていただきます。



(質問)何をもって、新型コロナウイルス感染症が、収束(終息)したと言えるのか教えてください。

(回答)いくつかの指標を使います。東京クラスの約1000万人都市の場合には、新たな感染者の数が1日あたり10名以下になった、または、国全体では、1人の感染者が何人にうつしているか、(基本再生産数R₀)が1以下になるなどを、時間を追ってみていくことが大切です。

では、私たちが住んでいる島根県では、何が1番、収束(終息)したかの参考になるでしょうか。地域の医療機関が必要であたりまえの医療を提供できている状況にあるかどうか、最も重要な指標になります。地域医療に携わる医師・看護師など、医療スタッフは、数が限られています。皆、一丸となり、がんばっています。収束(終息)に向かうためには、住民の地域医療を守ろうとする意識が、とても大事です。

新型コロナに限った話ではありませんが、感染症や災害に備えた地域医療のあり方を模索し続けていきたいと思っています。

セミナー報告
SEMINAR REPORT

地域医療Webinar

ヒトと感染症と医療の歴史から
これからの地域医療を考える

【実施日】令和2年5月22日(金)18:00~19:00

【講師】東京ふれあい医療生活共同組合 梶原診療所 所長 平原 佐斗 先生

【参加者】20名

概要

「ヒトと感染症と医療の歴史からこれからの地域医療を考える」と題して、「現代社会とコロナパンデミック」「医療の歴史と感染症」「プライマリケアと在宅医療の歴史」「未来医療をどう描く?」の4つに分けてお話頂いた。

私は今コロナ禍に立ち向かい、感染症が医療や政治・経済、生活に多大な影響を与える事を実感している。感染が世界的に蔓延する中、未来の医療を考える上で、人類が感染症をどのように克服してきたのか歴史に学ぶことの意義を教示頂いた。

そして、超高齢社会到来後初めてのパンデミックは、日本においてもACP等看取りへの配慮ができる状況になかったと話された。これからの医療を担う学生だからこそ、しっかり現実を見つめ未来の医療を考えるよう警鐘を鳴らして頂いたように感じた。

プレホスピタルを担う
救急隊の活動について

【実施日】令和2年6月8日(月)18:00~19:00

【講師】出雲市消防本部 警防課 救急救命センター長 出川 徹 先生

【参加者】18名

概要

出川先生は救急救命士で、現在は現場で活動する救急救命士の指導および救急活動訓練等のマネージメントを担当されている。

第1部は消防機関の組織体制や業務内容を、PR動画等を用い詳しく説明いただいた。第2部はプレホスピタルの現場で活躍する救急救命士の活動内容やファーストレスポンスシステムの説明があり、地域住民が救命のために救急初期対応を担うことの重要性を学んだ。

医学生にとってプレホスピタルはあまり馴染みがない分野であったかもしれないが、アンケートには、「将来救急科を専攻したいと考えている。」「モチベーションが上がった。」「病院でバトンタッチする医師として頑張ろうと思った」などの回答がみられた。

Career Webinar



【実施日】令和2年5月15日(金)12:15~12:45

【講師】島根大学医学部内科学講座内科学第一 教授 金崎 啓造 先生

【参加者】28名

概要

先生が今日に至られる過程には、その時々で転機に優れた指導者との出会い・助言があり、そこに先生ご自身の意思決定のもと、新たなチャレンジを重ねキャリアアップを図られてきたことが分かった。リサーチマインド溢れる先生のお話しのバックグラウンドには臨床と研究の確かな実績があり、「今いる環境を変えることを恐れない」「専門医のみではなく専門家に」「牛後となるなかれ」等多くのメッセージが学生に伝えられた。

また、ダイバーシティ&インクルージョンをテーマとした教室運営について話された。最後に伝えられた「昨日の自分より常に一歩進化を!!」はそのような創造性のある人材を求めているというメッセージでもあり、心惹かれた学生も多かったと思われる。



【実施日】令和2年6月15日(月)12:15~12:45

【講師】島根大学医学部麻酔科学講座 医科医員 上田 愛瑠萌 先生

【参加者】16名

概要

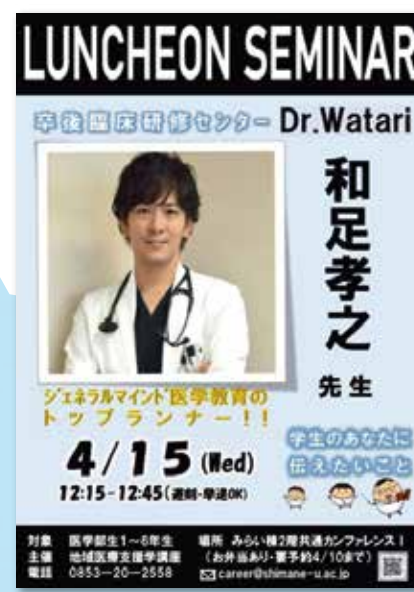
先生は医学部に学士編入学され医師になられて7年目の麻酔科医である。

学生時代は編入学した3年次を頑張り進級した事や診療科選択で悩んだ事、研修医時代はプログラムの内容等、写真や図・エピソードを織り交ぜながらお話頂いた。

また、麻酔科の魅力を全身管理のスペシャリストとして、多岐にわたる知識や技術が磨けると紹介された。

そして、最後に病を持つ患者に向き合う医師であるからこそ、自分自身が元気でなければならぬと「セルフメンタルヘルスケア」の必要性について、具体例を示しお話頂いた。

先生はご自分の事を「流されるタイプ」とお話になるものの、並々ならぬ努力もサラッと語られ、たおやかな容姿の中に芯の強さを感じ、爽やかな笑顔が印象的であった。



令和2年第1回ランチョンセミナーは、4月15日に卒業臨床研修センターの助教で、ジェネラルマインド医学教育のトップランナーである和足先生を迎えて開催予定であった。

しかし、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、学生も自宅待機による健康観察期間中であることから中止とし、7月に延期した。



隠岐広域連合立隠岐病院

院長
長谷川 明広 先生

隠岐諸島は日本海に浮かぶ国境離島です。人々は、隠岐世界ジオパークという悠久の大地で暮らし、文化を継承してきました。医療は、島民の生活には欠かせないものであり、私達医療人は、地域全体の幸せを守る仕事の一端を担っています。

隠岐病院は島後にある島で唯一の中核病院（115床）ですが、3カ所の町立診療所とは医師ブロック制でお互いに病診連携をしています。

私は産婦人科医ですが、町立診療所に初めて代診に出かけた時、診察室の応急処置の文書を見て驚きました。「①ウニ、オコゼ、エイ、ムカデは患部をお湯につける②クラゲは水、お酢で洗い小麦粉をふりかける③まむし咬傷は隠岐病院へ紹介」そうか、ここは海辺の診療所で鮑も獲れるが松茸も採れる山にも近い地域なんだ。隠岐の島に42年ぶりに帰郷した私にとって、まさに離島医療の現場に踏み出した瞬間でした。

これから医師としてご活躍の若い皆さん、人生の中の短期間でも離島医療を体験しませんか。子育て

ても離島の環境は最高です。地域医療と先進医療をうまくブレンドして豊かな味を醸し出すキャリア形成を期待しています。

（先生にはコロナ禍前に原稿を頂きました。）



隠岐広域連合立隠岐病院

〒685-0016 島根県隠岐郡隠岐の島町城北町355
Tel: 08512-2-1356 Fax: 08512-2-6149

新任のあいさつ



助教 堀田 優希江

初めまして。新しく地域医療支援学講座に加わりました堀田優希江です。

島根県益田市出身、島根大学を卒業し、これまで約10年間、島根大学耳鼻咽喉科にて働いていました。ずっと島根大学に関わってきています。

5歳、3歳、0歳の子供がいます。子供達はみんな院内

の保育所に預かってもらっています。

この度、第3子の育休明けのタイミングで地域医療支援学講座に参加させてもらいました。講座では、これまでの臨床での経験、また子育てをしながら仕事している現状も充分に活かさせていただけたらと思います。

未熟者ですが、どうぞよろしくお願いいたします。



今後の予定

■ 地域医療Webinar

令和2年7月3日（金）18:00-19:00

講師：齊藤 稔哲 先生
宮城県気仙沼市立本吉病院 院長

■ Career Webinar

令和2年7月8日（水）12:15-12:45

講師：和足 孝之 先生
島根大学医学部附属病院卒後臨床研修センター 助教■ 総合診療医ブラッシュアップセミナー（WEB）
（日本プライマリ・ケア連合学会島根県支部学術集会）

令和2年8月8日（土）10:00-12:00

講師：大曲 貴夫 先生
国立国際医療研究センター病院 国際感染症センターセンター長講師：牧石 徹也 先生
島根大学医学部総合医療学講座 教授■ 総合診療専門医
プログラム説明会（WEB）

令和2年8月8日（土）13:30-16:30

講師：坂口 太太 先生
雲南市立病院地域ケア科 医員

■ 夏季地域医療実習

令和2年8月17日（月）～21日（金）

■ 地域医療セミナー

令和2年9月4日（金）18:00-19:30

講師：上野 伸行 先生
浜田市国保診療所連合体 あさひ診療所 所長

■ ランチョンセミナー

令和2年9月14日（月）12:15-12:45

講師：坂本 達則 先生
島根大学医学部耳鼻咽喉科学講座 教授■ 地域医療支援学講座
10周年記念事業

令和2年10月17日（土）13:00-16:30

出雲ロイヤルホテル 2階 飛鳥の間

CHECK



コロナ禍と向き合い数ヶ月、生活が一変する中で何かしらいつも不安と隣り合わせのような日々が続いています。レターをお読みいただく皆さんの気持ち但至少でも晴れますように、今回のレターの色調はブルーです。有形には空・海といった広大なイメージが浮び、爽快感・開放感をもたらしてくれます。早くマスクを外して心から笑いあえる日を願いながら、一方でブルーの無形の部分である冷静さ・知性をもって、日々の生活を過ごしたいものです。

島根大学医学部
地域医療支援学講座
ホームページはこちらから →

